

論述ブースト No.9

少子化・人口減少を医療の視点で論じる —— 産科・小児科・地域医療を軸に

目標：少子化・人口減少という社会課題を「医療・医師の役割」という視点で論じる力を養う。産科・小児科の医師不足、地域医療の崩壊、少子化の医学的・社会的要因を構造的に論証できるようにする。

授業の仕掛け（直感への衝撃）

導入：「少子化を解決するために医師は何ができますか？」→「産科医を増やす」で終わる生徒が多い。しかし少子化の根本原因は医療だけでは解決できない多因子問題。

核心：少子化×医療の3軸：①産科・小児科の医師不足 ②少子化の社会的決定要因 ③医療が果たせる役割と限界

採点者の視点

採点者はここを見ている —— 少子化・人口減少・地域医療で合格答案はこういう「構造」をしている

① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」

少子化・人口減少・地域医療では、*医療課題への接続根拠*が答案の質を大きく左右します。

② 少子化・人口減少・地域医療で採点者が見ているポイント

「少子化の事実から産科・小児科の需給課題に論理的に接続した答案」が採点者評価を上げる

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所